

英語アレルギーを克服するために



成城大学 井上 徹

はじめに

『SELECT English Expression I』（以下、『セレクト表現』）は、基本的な文法事項が英語表現でどのように使われるのか学びながら、英文法の基礎・基本を確実に習得しようとしている高校生のために編集したものです。『セレクト表現』は「英語表現I」の教科書ですので、主に「話す」「書く」活動を通じて、自己表現や発表をするために必要な要素を様々な角度から学習できる構成になっています。特に英語を苦手としている生徒や英語に自信が持てない生徒たちがこの教科書で英語の基礎的分野を繰り返し練習し、これまでつまずいてきた事項を発見し、不安な事項を克服できるように編集してあります。

本稿では、まず、高校生にとって必要な英語の基礎力とは何かについて触れ、将来に向けてどのような基礎力を身につけておけばよいのかを考えます。次に、そのような基礎力を伸ばすために『セレクト表現』で配慮したことを説明します。

英語の基礎力とは何か？

「英語の基礎力とは何か？」と問われて、即答できる人は多くないでしょう。英語の基礎力という用語は漠然としていて、捉えどころのないものだからです。英語の基礎力といっても「基礎力」の捉え方は人によっていろいろあり、学んだ単語や文法が理解できれば基礎力が身についたと考える人もいれば、学んだ単語や文法を使うことができ初めて基礎力が身についたと考える人もいます。

いま仮に中学校で学習する内容を英語の基礎としましょう。中学英語は基本中の基本であり、やさしいというイメージを持っている人が多いと思いますが、実際には、語順、品詞、発音など、日本語と英語が持つ根本的な違いにより、決してやさしいもの

ではありません。日本語に慣れた私たちが英語を話す場合、どうしても音声面で母語の干渉が障害になりますし、英語の文構造や文法事項に習熟する際にも文法面で母語の干渉が障害として働くからです。考え方としては、中学英語が理解できれば基礎力が身についたと考えるのでしょうか。それとも中学英語を使うことができ基礎力が身についたと考えるのでしょうか。筆者は中学英語を使うことができ初めて基礎力が身についたと言えると考えています。『セレクト表現』では様々な問題演習や言語活動を通して、実際に使うことができる基礎力が身につけられるような工夫がなされています。

高校生にとって必要な基礎力とは？

中学校と高校の段階で定着すべき基礎が、単語や連語、文構造や文法事項、そして発音に関する知識であることに異論を唱える人はいないでしょう。これらを土台にして、聞くこと・話すこと・読むこと・書くことという基本的なスキルが形成され、さらに発音・語彙・文法の正確さや流暢さ・複雑さといった運用能力が加わって「実践的コミュニケーション能力」が形成されると考えられるからです。

では、高校生にとって必要な基礎力とは一体何でしょうか。まず、基本単語や連語が書けて読めることです。次に、文構造と文法事項の基本を理解していることです。高等学校の段階では、中学校で学んだ文法の基本を確認しつつ、場面を重視した一歩進んだコミュニケーションのための学習英文法を効率的に学び、その知識を活用して話したり書いたりすることでしっかりとした基礎力を作る必要があります。というのは、英文法の様々な項目からなる英語表現は、当然、言語使用と結びついているからです。たとえば、自分の予定や計画を表現しようとする場合、be going toなどの未来表現が必要になってく

るはずです。文法形式の理解を中心に学んできた文法を日常生活の場面に結びつけて捉えるようにすると、これまで学んできたbe going toとは違った理解の仕方が可能になり、be going toの用法や関連する表現との相違点にも目が向く効果が期待できるかもしれません。このことは「文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。」という新学習指導要領の考え方と一致するものです。

将来に向けてどういった基礎力をつけておけばよいのか？

実践的なコミュニケーションを行うためには、語彙や表現、文法が頭の中から必要なときにすぐに取り出せるようなところまで自動化されていなければなりません。自動化するための特効薬のようなものではなく、ある一定の期間に渡って繰り返し練習するしかありません。

反復練習と学習の継続というすぐ機械的に暗記することを思い浮かべますが、単に暗記するのは学習は長続きしません。上で触れたように、話し手と聞き手によって意味のある状況を作り、授業の中で繰り返し練習することによって、コミュニケーション能力の獲得につながるのです。

また、実践的なコミュニケーションというと、話したり聞いたりすることを連想しがちですが、音声だけでなく電子メールなどの文字を介したコミュニケーションの機会は今後さらに増えていくと考えられます。就職してからは英語のビジネス文書を読んだり書いたりすることが、留学したらレポートや論文を書くことが避けて通れません。話したり聞いたりするだけでなく、読んだり書いたりする能力もコミュニケーションに大きな役割を担います。将来のことを考えて身につけておきたい基礎力とは、語彙や文法を土台として4技能を総合的に活用できる能力ということになります。

『セレクト英語表現』で身につける基礎力とは？

本教科書で英語の基礎・基本を学ぶために配慮したことは、上で述べたように、中学で一度学んだ英文法を、場面を重視したコミュニケーションのための学習英文法の立場から見直すことです。扱う文法項目の中でこれだけは覚えてほしいというものを

「セレクト英文法36」として絞り込んだうえ、ことばによる説明を最低限にとどめ、英文法のイメージを視覚的に捉えられるようにしました。

文法項目を実際に使えるようにするためには、知識と経験の両方が必要です。知識と経験のどちらかが欠けていても身につけません。習ったものを忘れるのが人間ですので、繰り返し教え、繰り返し使わせることで、達成感を持たせるようになっています。

「習った英語は使わせる、表現させてみる」という趣旨のもと、「イントロ英会話」という会話の中で、ターゲットとなる文法を使用した表現を導入します。「イントロ英会話」で導入された文法事項は、「セレクト英文法36」のキーセンテンスとイラストで理解を深めます。一例を示すと、現在完了形の完了の用法を扱うレッスンでは、“I have already done my work.” というキーセンテンスとともに、過去のある時点でドアにペンを塗る作業が始まり、今ではその作業が完了している様子为抓手やすくイラストで示されており、文法の特徴を視覚的に理解できるように工夫してあります。

「セレクト英文法36」で学んだことが理解できたかどうかは、すぐに「瞬間チェック」という2択または3択問題で確認します。「瞬間チェック」では、セレクト英文法を機械的に丸暗記するのではなく、平易な問題演習を通して「できた!」「わかった!」という自信や安心感を与え、楽しい英語の世界へ一歩踏み出せるようになっています。

「瞬間チェック」に続く欄外では、「英語で何と言う?」というミニコーナーを配置しています。このコーナーでは、各レッスンの文法項目を含む、言えそうで言えない英語表現を紹介しています。たとえば、willとbe going toを学習するレッスンでは、漫画『美少女戦士セーラームーン』で主人公が言う決めゼリ「月に代わっておしおきよっ!」の英訳である“On behalf of the moon, I will punish you!”が紹介され、学んだことがこんなふうに使えということが自然にわかるようになっています。

次の「Let's Listen」では、教科書の写真を見ながらリスニング問題を行います。ここで聞く3つの英文の一つにはセレクト英文法で扱った文法事項が含まれています。さらに、「Gトレ（ーニング）」では各レッスンの文法とテーマに沿った問題文で基礎の定着を図ります。続く「場面でGo!」では、セレク

ト英文法に関連した丁寧表現や場面にあった英語表現を2択問題で学習します。(例：ホストファミリーに「自転車を借りられますか?」と丁寧にあずねるとき。(Can / May) I use your bike?) なお、各表現が使用される場面の説明にはヒントとなることばに下線をつけ、無理なくネイティブ感覚の英語表現が身につけられるようになっています。

各レッスンの最後には、当該のレッスンで学んだ英文法を用いて、会話形式で自分のことを英語で表現する「Speak Up!」を配置しています。このコーナーには「toolbox」と名づけた表現例を置き、英語の苦手な生徒でも、学んだことをすぐに使ってアウトプットできるように配慮されています。

なお、課間活動として4レッスンごとに「Gトレプラス」、「つなぎ言葉ランキング」、「Speaking Station」、「Daily Conversation」を配置しています。「Gトレプラス」は本課の「Gトレ」のプラスαとして、問題を解きながら本課で学習した文法に繰り返し出会うように、工夫がなされています。

「つなぎ言葉ランキング」では、and, but, because など、文と文を結びつけ、文章全体の結束性を高める際に欠かせない接続詞10個の用法をわかりやすい例文と直感に訴えるイラストで解説しています。また、読んだり聞いたりしながら、テーマに沿った「情報や知識を取り入れ」、「自分の考えをまとめ」、「自分の意見を発表する」というアウトプット活動に生徒が主体的に取り組める教材として、「Speaking Station」を設けています。このコーナーでは、手順に沿って発表するための表現や音声のポイントを押さえながら、パラグラフ・ライティングの基礎も学べるように工夫がなされています。さらに、新学習指導要領の趣旨を生かした総合的な言語活動として、「Daily Conversation」を3回分設けています。このコーナーでは、本課で習った文法事項を使っ

て、買い物、レストラン、道案内の場面でよく使われる会話表現を学べるようになっています。

以上のように、『セレクト表現』では学習した文法事項を様々なコーナーで繰り返し、スパイラルに使わせるように工夫し、基礎・基本の定着をねらっています。

おわりに

本稿では、「基礎力」をキーワードに、高校生が身につける英語の基礎力について考え、英語の基礎・基本を身につけるために『セレクト表現』で配慮してきたことを述べてきました。

本教科書では、①できるだけシンプルにできるだけ面白く文法事項を導入する(理解可能なインプット)、②どの生徒もマスターでき、学習の継続を促すような平易で興味深い内容にする(学習の動機づけ)、③習った文法事項は、書いたり話したりする演習や言語活動を通じて徹底的に使わせ、理解の定着を図る(反復学習と応用による大量のアウトプット)、という趣旨のもと、文法項目の基礎力が身につけられるようになっています。語学学習の難しいところは学習の成果がなかなか見えにくいことですが、だからこそインプットだけでなく、学んだことや覚えたことをすぐに使ってアウトプットすることが大切です。本教科書は、話す活動と書く活動をバランスよく取り入れ、どの生徒にも自分もやればできるという達成感を感じられるように配慮されています。『セレクト表現』で扱っている文法の多くは中学で学習した項目ですが、この一冊を学び終えたときには、英文法に対する「わかったような、わからないような」というモヤモヤ感は消えています。本教科書で学んだことが、これからの英語学習を支える大きな力になることを心から願っています。

